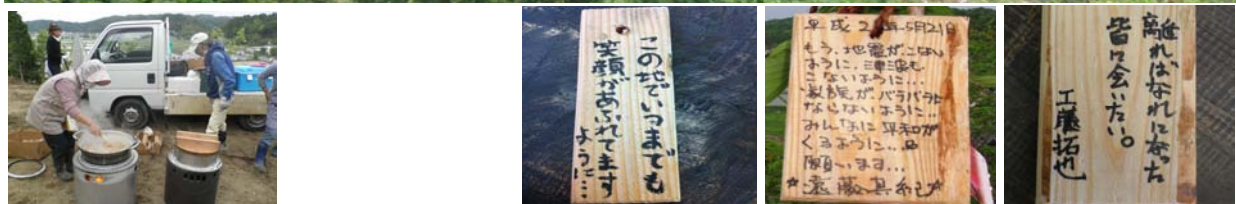


桜を植える人たちが喜んでくれたら嬉しいです



▲木村保之次さん(91才)  
「桜の花が満開に咲くのが本当に楽しみです。俺が生き残っているうちに綺麗な花、見させてくれよ！大きくなるまで手入れもしつかりしてね。刈った山に木を植えてもらい、安心です。」  
隣に住む樋口満枝さん(80才)は、「保之次さんは90になって現役で、この地域の為にひと肌脱ごうと頑張つていらつしやる。大したもんだと思ひながら、植樹している様子を見ていたんですよ。」と話していました。



▲志賀由直さん  
「夢とロマンのあるプロジェクトだと思います。この企画に賛同した木村保之次さんは約三千坪の山林を提供しました。私もこの話を聞きましたので約千五百坪の山林を提供することにしました。これからも土地の提供者は増加すると思いますよ。」と語る由直先生。6月10日嘱託員総会(区長会)でも植樹参加者を募つてみては？と提案してくださいました。  
先生は内郷高校の校長職を定年退職しても現在いわきテレワークセンター顧問、東日本国際大学講師など各分野での要職で大忙しの毎日。多忙の中、植樹プロジェクトの参加者募集にも尽力くださっています。5日は奥様の邦子さんがご友人と植樹に参加してくださいました。  
「ちようどうちの山、好間林産にチップを売つたばかりで、これから荒れ放題になるのでは？と一抹の不安を感じていたところでした。桜は杉のように用材に



▲木村茂さん

「うちの山は由直先生の山と隣同士で、先生から電話をもらつたり、武美君から話を聞いたりして…。これからの人に原発の後始末だけでなく、桜の木を植えて、そこで宴会できるような明るい希望の場を残せることに協力できるならこんな嬉しい事はありません。植えてくれる植樹の参加者の方たちも自分の故郷のような思いでまた見に来てくれるでしょう。この企画に参加できてよかったですと思います。」  
と語る茂さんは、回覧板を回したり、山の協力者に話をしてくれるなど、積極的に助け、働きかけてくれています。  
「桜の名所になって、たくさんの方が花見に来たら、花見饅頭でも売ろうかな(笑)。」

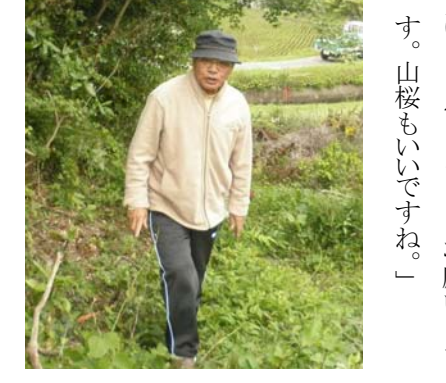


はならないけれど、桜を植えることで人々の心を癒やし、未来の人たちへ憩いの場をプレゼントすることができてよかったと思っています。」

▲丸北志賀組 志賀武美さん  
「先祖が子孫を思い植林した杉やヒノキを切つた後、その場所に新たに植樹しないと、土地に保水力がなくなり、土砂崩れなどの被害が起きる危険性があるのではないかと思つていました。今回、広範囲に山の木を切つていきましたからね。そう思つていた矢先に、このプロジェクトの相談をされました。また、ほつておくと竹藪になり山が荒れてしまします。」と、東北機工(株)のプロジェクト趣旨、植林共に共鳴。地域の人脈を生かし、土地協力者を募るなど尽力くださっています。  
「山はいいよ。自分の足を使つて登つて、下つて。遊歩道も作つているけど、もし、ここが散歩コースになれば100才まで長生きできるよ！誰も入らなかつた山林が生まれ変わつて地域活性にも繋がれば嬉しい。」



▲木村吉伯さんのお母さん  
「ちようど和雄さんが山の下見に行つしやつて、一人ではなかなか行けないので、私も一緒に登つてみました。頂上は見晴らしがよく、保之次さんの山も見えました。今日のようには普段会わない和雄さんとも何十年ぶりに遇つたりして、地元の憩いの場になりそうね。私のところで植えられる山があるなら喜んで協力しますよ。」



▲志賀和雄さん

▲志賀勝子さん  
「震災の為、いわきの各学校に避難されている人たちに温かな豚汁を届けている活動をする中で、仲間と東北震災の復興を祈つて桜の苗を植樹しました。山の頂上まで登れて嬉しかったです。」勝子さんは志賀和雄さんにも植樹のお話をしてくださりました。

